

平成25年度 第2回 鶴岡地域審議会

次 第

日 時 平成25年8月2日（金）
午後1時30分～

場 所 鶴岡市役所 3階 議会委員会室

1 開 会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 意見交換

(1) 鶴岡に移り住んだ方との意見交換

(2) その他

5 分 科 会

※会場 地域コミュニティ分科会：401会議室
産業経済分科会：502会議室

(1) 各協議テーマの具体的な方策について

(2) その他

6 そ の 他

7 閉 会（分科会毎）

鶴岡地域審議会委員名簿

平成24年7月1日～平成26年6月30日

	所属団体名等	氏名	備考
1	鶴岡市町内会連合会会長	山田 登	
2	鶴岡市自治振興会連絡協議会会長	本間 仁一	
3	鶴岡市農業協同組合代表理事組合長	今野 毅	
4	出羽庄内森林組合理事	土岐 純一	
5	山形県漁業協同組合常務理事	田村 勇次	
6	鶴岡商工会議所会頭	早坂 剛	審議会会長
7	鶴岡市観光連盟会長	三浦 惇	
8	鶴岡市社会福祉協議会理事	茅野 進	
9	鶴岡市民生児童委員協議会連合会会長	竹内 峰子	
10	鶴岡市PTA連合会副会長	横山 真二	
11	NPO法人鶴岡市体育協会会長	稲泉 眞彦	
12	鶴岡市老人クラブ連合会会長	後藤 輝夫	
13	鶴岡市婦人会連合会会長	齋藤 春子	審議会副会長
14	公益社団法人鶴岡青年会議所副理事長	今間 智寛	欠席
15	鶴岡市消防団団長	伊藤 俊昭	欠席
16	学識経験者	竹田 理英	
17	学識経験者	丸山 絢子	
18	学識経験者	菅 隆	
19	学識経験者	奥山 春名	
20	学識経験者	菅原 衛	

鶴岡地域審議会 分科会名簿

コミュニティ分科会

◎分科会長

No.	所属団体名等	氏名
1	鶴岡市町内会連合会会長	◎山田 登
2	鶴岡市自治振興会連絡協議会会長	本間 仁一
3	(社福)鶴岡市社会福祉協議会理事	茅野 進
4	鶴岡市民生児童委員協議会連合会会長	竹内 峰子
5	鶴岡市PTA連合会副会長	横山 真二
6	NPO法人鶴岡市体育協会会長	稲泉 眞彦
7	鶴岡市老人クラブ連合会会長	後藤 輝夫
8	鶴岡市婦人会連合会会長	齋藤 春子
9	鶴岡市消防団団長	伊藤 俊昭
10	学識経験者	竹田 理英
11	学識経験者	菅原 衛

事務局:コミュニティ分科会担当

地域振興課主査	三浦 裕美
地域振興課主任	小野寺 善紀
地域振興課主事	富樫 智彦

産業経済分科会

◎分科会長

No.	所属団体名等	氏名
1	鶴岡市農業協同組合代表理事組合長	◎今野 毅
2	出羽庄内森林組合理事	土岐 純一
3	山形県漁業協同組合常務理事	田村 勇次
4	鶴岡商工会議所会頭	早坂 剛
5	鶴岡市観光連盟会長	三浦 惇
6	(公社)鶴岡青年会議所副理事長	今間 智寛
7	学識経験者	丸山 絢子
8	学識経験者	菅 隆
9	学識経験者	奥山 春名

事務局:産業経済分科会担当

地域振興課長	阿部 真一
地域振興課専門員	前田 哲佳

鶴岡地域審議会 地域コミュニティ分科会 見だしシート ~住んでよかった、幸せに暮らすことが出来る地域づくりに向けて~



団体や住民が取り組んでいること、取組みが出来ることに、誰が、どんなことしたら、もっと取組みを進めることができますか？

提案(課題)は、誰が、どんなことをしたら、進みます(解決されます)か？

追加する取組みや実践例、提案はありませんか？

地域コミュニティ分科会（第1回分科会まとめ）

※分科会での意見と書き出しカードから

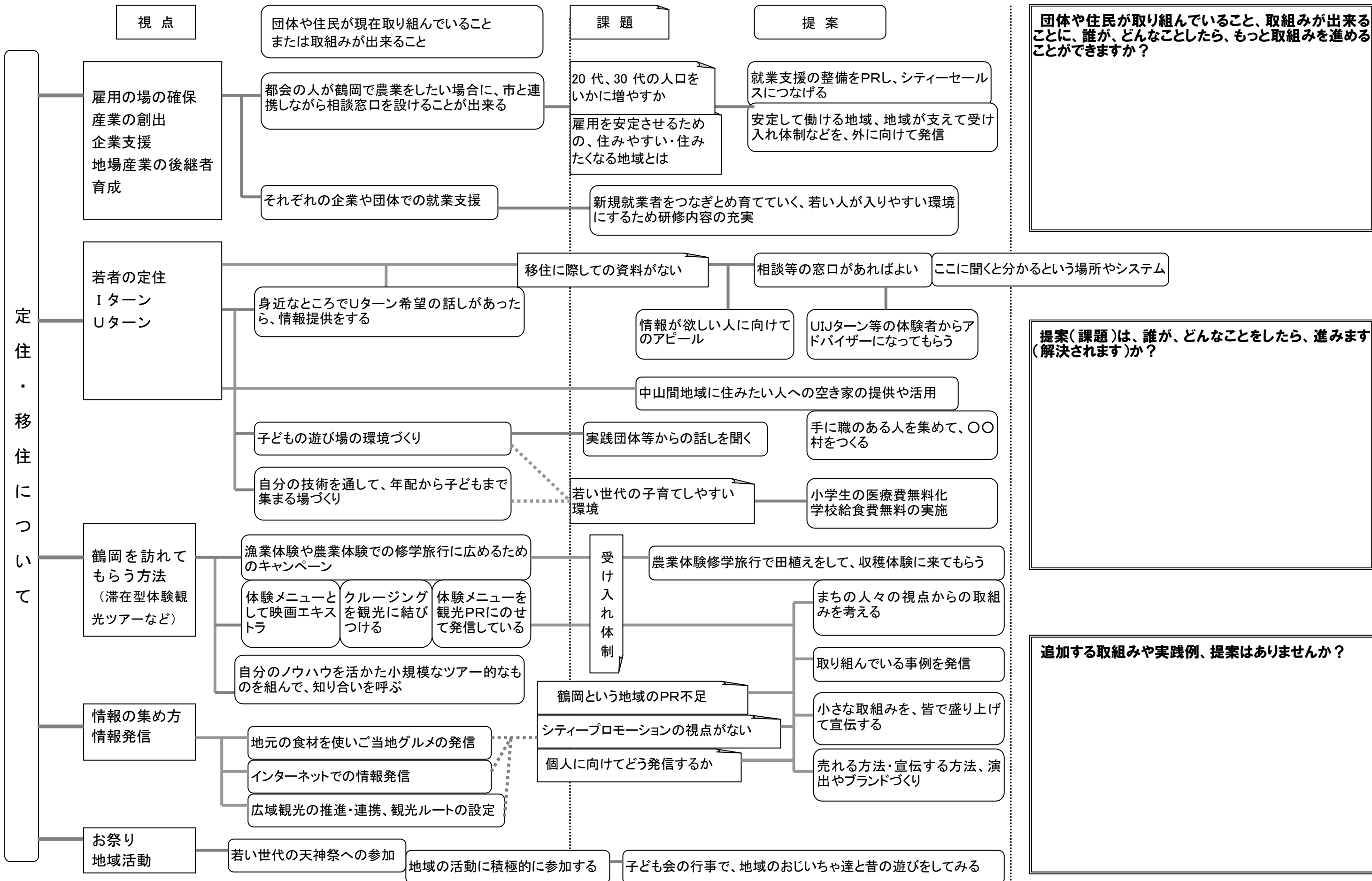
項目	所属する団体や組織、住民自らが出来ること	団体や組織、住民が出来ることをすることで、成果や効果は	現状			問題点・課題	提案・こんなことがあったらいいのでは	効果として考えられること	実現するために何をすればいいか	取組みむ主役は誰・どこそして、支援や協力者はだれ
			現在行っている活動事例の紹介	状況	現在市が実施していること					
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> 町内会の役員について、役割分担をして、会長や副会長だけが背負わない 自治会や地域に中にある各団体の維持も難しくなってきたので、今後どういう形で考えていくかについて、一度集まって話し合うことにしている。 役員がいつも同じなので、同じような行事になってしまふ。住民の意見を聞く機会を提案した。 三瀬は森林が多く、実施した事業等についての報告会を開催している ケアネットワーク推進会議を年2回開催 	<ul style="list-style-type: none"> 住民会長と語る会を実施したら良い意見が出た。 住民会長と語る会を実施したら良い意見が出た。 150名ほどの参加があった。 			<ul style="list-style-type: none"> 学区各組織団体長、市、包括支援センター、在宅支援センター、消防分署、警察駐在所、新聞販売店、郵便局を含め、要支援者の情報交換をしている 	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境、買い物環境を整える 地域の活性化を進めるには、どうあればよいか課題 	<ul style="list-style-type: none"> 中心部の再開発(道路など)の完成 全地区、全学区の振興会と地区社協を統合し、町内会、住民会等の自治会と諸団体を取り組んで新コミュニティを再構築する 地域の行事を役員だけでなく、実行委員形式にして実施してはどうか 町内活動に市職員の担当することと連携 	<ul style="list-style-type: none"> 諸団体や各年代層の相互理解が深まり、地域の運営や事業など、住民自らが自発的に協力し、住民と心の元気がつながり住みよい地域になる 		
婚活	<ul style="list-style-type: none"> 一つに自治会だけでなく、複数の自治会が一緒になって婚活イベント等を実施する 自治会主催の婚活イベントを3回実施した 同窓会や同級会や、また30歳の成人式などといったような出会いの場をつくっていく 	<ul style="list-style-type: none"> 地元の人も参加しやすくなる 一組成婚した 		<ul style="list-style-type: none"> 民間レベルで小規模で頑張っているところがあるが、長続きしなかったり、経費の面で厳しい場合もあるようだ 結婚したいと思う人は婚活イベントに参加するが、現状に満足している人は、参加しないように感じられる 	<ul style="list-style-type: none"> 地域振興課、各地域庁舎で、地域資源を活用した婚活イベントを実施している 市ホームページに「つるおか婚活支援ネットワーク」の専用ページがある つるおか婚活支援ネットワークに登録した登録団体及び応援団体に上限を5万円として対象経費の2分の1を助成 	<ul style="list-style-type: none"> 物資、業者への助成金などの支援 学校の先生、特に高等学校の先生の力を借りてみる 成婚の実績を市のホームページで広くPRする 市が後援や支援という形で一緒にやろうということでもいいのでは 				
子育て子ども達への教育	<ul style="list-style-type: none"> 居場所づくりを行い、若者同士の交流する場づくり 					<ul style="list-style-type: none"> 廃校の校舎などの活用 子育てに不安がないような優しい支援、経済的な援助 				

項目	所属する団体や組織、住民自らが出来ること	団体や組織、住民が出来ることをすることで、成果や効果は	現状			問題点・課題	提案・こんなことがあったらいいのでは	効果として考えられること	実現するために何をすればいいか	取組みむ主役は誰・どこそして、支援や協力者はだれ
			現在行っている活動事例の紹介	状況	現在市が実施していること					
子育て子ども達への教育							人口が増えている自治体は、子育てへの支援が一生懸命だと思うので、先進地の事例も参考しては			
高齢者に優しいまち	<ul style="list-style-type: none"> ひとり暮らしの方の体調不良者の見守り、気配り、目配りとしての福祉員制度を実施している 一人暮らし家庭へ回覧場を回す時の声かけ 福祉協力員制度 高齢者が閉じこもらないように、近隣の高齢者を訪ねる「2・5にこ友愛訪問の日」を設けて」新しい活動に取り組む 町内会長、民生児童委員、福祉協力員の見守り支援の情報交換を行っている。 見守り安心カードを作成 	情報の共有化を図っている 安心カードは消防署と共有されてきている		<ul style="list-style-type: none"> 民生委員の仕事が多く大変なため、町内会の中には、福祉協力員を選任し、ボランティアとして活躍できる町内会にしたいという話が出ている 自治体で福祉協力員を委嘱しているところがある。鶴岡市は社会福祉協議会で委嘱している 		<ul style="list-style-type: none"> 三者会議の定着を求めている 個人情報保護を超えての対応を求めている 				
安心して暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> 福祉防災マップを各町内会で作成するように、学区社会福祉協議会はボランティアセンターと協働して実現した 小波渡、小堅両自治会で実施している「火の用心」 町内の高齢者一人暮らしや体調不良の方を訪問しながら、何かあった時は駆けつける防災連絡員を置いた 	要援護者見守り、支援の仕組みと実態把握ができ、緊急時の対応が出来る	福祉安心カードの作成と高齢者への配布として消防署と、高齢者一人暮らしのため今年度各学区では取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 車社会になってから特に、歩道を作ってもらいたいという要望が出る 防災訓練、避難が具体的に役立ってきている 各町内会に拡大されてきている。 全市に拡大されてきている 		<ul style="list-style-type: none"> 海岸地では緊要な課題 民生児童委員・町内会長との連携が課題 				
			プライバシーに関するところがあるので難しい面もあるが、民生委員の方々からも協力してもらってやっている							

項目	所属する団体や組織、住民自らが出来ること	団体や組織、住民が出来ることをすることでの、成果や効果は	現状			問題点・課題	提案・こんなことがあったらいいのでは	効果として考えられること	実現するために何をすればいいか	取組みむ主役は誰・どこそして、支援や協力者はだれ
			現在行っている活動事例の紹介	状況	現在市が実施していること					
空き家 空き地					・空き家条例、空き家バンク、実態調査	・実態調査をして優良ランクの空き家情報についてのPRが不足している	・優良空き家の活用 ・自治体には安心感やブランド性があるので、優良空き家のPRや宣伝をする ・空き地を畑とかにしていして地元の人に貸す	移住してくる方へのきっかけになる		
市の建物等の利活用				・市の建物にも空いている部屋がある		・施設の整備も財源が限られていて厳しい	・野球場などにネーミングライツを導入してみる	施設に管理運営の財源に出来る		
情報の集め方 情報の発信				・子どもの連絡先等をあらかじめ届けて欲しいとお願いしても、なかなか同調してくれない人が増えている ・これからは、ホームページやインターネットの活用が多くなっていく		・広報が月1回になったので、カバーできる手立てを	・地域情報、組織情報を共有化する必要がある ・ホームページや各課のPRも、写真やイラストを使ってもっと見やすいように。視覚重視。			

鶴岡地域審議会 産業経済分科会 見出しシート

～定住人口・移住人口を増やすための産業等の活性化に向けて～



団体や住民が取り組んでいること、取組みが出来ることに、誰が、どんなことしたら、もっと取組みを進めることができますか？

提案(課題)は、誰が、どんなことをしたら、進みます(解決されます)か？

追加する取組みや実践例、提案はありませんか？

産業経済分科会（第1回分科会まとめ）

※分科会での意見と書き出しカードから

資料2-2

項目	所属する団体や組織、住民自らが出来ること	団体や組織、住民が出来ることをすることでの、成果や効果は	現状			問題点・課題	提案・こんなことがあったらいいのでは	効果として考えられること	実現するために何をすればいいか	取組みむ主役は誰・どこそして、支援や協力者はだれ
			現在行っている活動事例の紹介	状況	現在市が実施していること					
雇用の場の確保の創出 企業支援 地場産業の後継者育成	<ul style="list-style-type: none"> 都会の人がこちらで農業をしたいという希望があった場合に、市と連携しながら相談窓口を設けることが出来る それぞれの企業や団体での就業支援 		<ul style="list-style-type: none"> 遊休農地、耕作放棄地にどのような農作物にするか検討している 	<ul style="list-style-type: none"> 地域としての付加価値が多い 観光産業は裾野の広いサービス業なので、あらゆる業種に拡大する 農業は出来ることを見つけようとするれば、無限の可能性はある 農業をやりたい人は、農地を借りるという形になっている。 		<ul style="list-style-type: none"> 生産人口をいかに増すか特に20代から30代位の年代について 雇用を安定させるためには、住みやすい地域、住みたくなる地域とならないと 新規就業者をつなぎとめ育てていく、若い人が入りやすい環境にする必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 就業支援が整っている地域だとPRする 鶴岡は安定して働けいけるところだということを、地域が支えていく、受け入れ体制が出来ているということを外に向けて見せていく 研修内容を充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> シティーセールスにつながる 	<ul style="list-style-type: none"> 就業や企業の立ち上がりのところを行政からの支援が必要 	
若者の定住 Iターン Uターン	<ul style="list-style-type: none"> 身近なところでUターン希望の話があったら、情報提供をする 子どもの遊び場の環境づくり 自分の技術をとおして、年配の方も子どもも集まる場づくり 			<ul style="list-style-type: none"> 鶴岡には受け入れる気質や温かさがある 日本の人口の約3分の1が首都圏に集中している 20歳から24歳までの年齢別人口が3桁である 人口減に伴って空き家が増える コミセンでも、昔の遊びとして、竹馬や駒づくりをせざるをえない状況になってきている 		<ul style="list-style-type: none"> 移住に際しての資料がない、窓口がない 首都圏に集中している人口をいかに地方に分散させるか 大学等への進学で県外へいった人が、社会人になった時に、いかに鶴岡に戻って来られるようにするか 今の子どもは遊び方を知らない 野山があっても、危険だということで遊べなくなっている 	<ul style="list-style-type: none"> 何をどこに聞けばわかるようなシステム 都会の人は、自分でやりたい事に対して、情報が欲しい人がたくさんいるので、もっとアピールしたほうがいい 鶴岡に行ってみたいと言われた時に、「ここに聞けば、ここに行けば」と言えるところが欲しい UIターンなど、実際の体験者の方々からアドバイザーのようなものになってもらう 芸術村のように、手に職のある人を集める 山間部辺りに住みたい人への空き家の活用 山間部には店も少ないので、移り住んだ人が店を構えたい場合に、お店をする場所を提供する 子どもの遊び場の環境をサポートしている団体や活動している人から鶴岡に来てもらい、話を聞いてみる 学校給食費無料の実施 小学生児童の医療費の無料化 	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代にとって、子育てしやすい環境がつけられる 	<ul style="list-style-type: none"> 移住してもらう仕掛けを今からするべき 	

項目	所属する団体や組織、住民自らが出来ること	団体や組織、住民が出来ることをすることでの、成果や効果は	現状			問題点・課題	提案・こんなことがあったらいいのでは	効果として考えられること	実現するために何をすればいいか	取組みむ主役は誰・どこそして、支援や協力者はだれ
			現在行っている活動事例の紹介	状況	現在市が実施していること					
滞在型体験観光ツアーや訪れてもらう方法	<ul style="list-style-type: none"> 映画エキストラとしての体験メニューの提供 クルージングなどを観光に結びつける 自分のノウハウを活かし、小規模なツアーを組んで東京から鶴岡に呼ぶ 	<p>漁村の魅力を引き出す</p> <p>鶴岡を知ってもらう機会の拡大になる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行生を対象に由良で漁業体験、楡引で農業体験をしている。それを広めるために新潟や仙台にキャンペーンに行っている ただちや豆体験、メロン体験など体験メニューを観光PRにのせて発信している 	<ul style="list-style-type: none"> 映画館で市内の中学校の職場体験をしている 県外の中学校も映画館での職場体験があった 		<ul style="list-style-type: none"> 受け入れ体制をどうするか 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行で田植えをし、そして収穫体験に来てもらう。 まちの人々の視点に立って、取組みを考えてみる 	<p>通年でなくても部分的に取り上げていけば、農業に対する理解も深まるし、教育全体としてもいいこと</p>		
情報発信の仕組みや方法	<ul style="list-style-type: none"> 地元ならではの食材やそれを使った料理で、ご当地グルメの発信 インターネットでの情報発信 広域観光圏の推進と連携 広域観光ルートの設定 			<ul style="list-style-type: none"> 情報発信はパンフレットも大切だが、インターネットでの発信に切り替えつつある 	<p>食文化の推進として食文化都市創造推進協議会でPRしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 鶴岡という地域のPR不足 シティープロモーションの視点がない 個人に向けてどう発信するか 	<ul style="list-style-type: none"> 「こういうことにも取り組んでいますよ」と発信する 小さなところで一生懸命に取り組んでいることを、皆で盛り上げて宣伝する方法を考える あるものをそのまま出すのではなく、売れる方法や宣伝する方法、演出やブランドづくりのようなものが必要 			
お祭り 地域活動	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代の天神祭への参加 住んでいる地域での活動に積極的に参加する 	<p>若い世代が祭りに興味を持ち参加するようになる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中央高校の太鼓部 北高の書道パフォーマンス 8月のお盆休みに鶴岡のお祭りウィークとして各団体と連携しPR活動や共同での情報発信をしている 				<ul style="list-style-type: none"> 子ども会の行事で、地域のおじいちゃん、おばあちゃんと昔の遊びを一緒にしてみる 			